

## 7. 軽トラック

### (1) 坂道駐車時の事故

#### 7. 軽トラック (1) 坂道駐車 ①

56

軽トラックの荷台に乗ってコンバインからの粃を荷受けする作業中、降りようとして足を滑らせ転落、右膝複雑骨折。(平成25年9月 午後3時頃 女性・55歳)

#### 事故の概況

自脱コンバイン(5条刈)で収穫した粃を、進入路(傾斜6°)に駐車した軽トラック(ダンプ式)の荷台に搬出する作業を行っていた。被害者が荷台に乗って排出オーガ先端に付いているボタンを操作して、排出オーガの向きを変えながら、粃が均等になるよう作業していたところ、軽トラックが動き出した。そのため、被害者が慌てて荷台から降りようとして足を滑らせ、約1m下のコンクリート舗装の上に転落し、左膝を打ち付けて関節を骨折した。

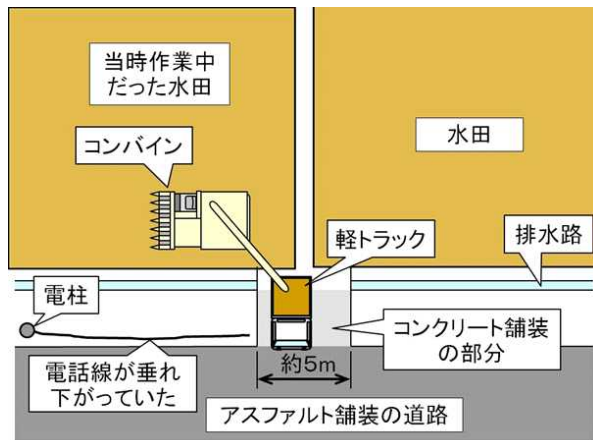
作業を中断して直ちに夫の運転で病院に向かった。当日はベッドが空いていなかったため、検査を受けた後、翌日入院した(1.5カ月、現在通院中)。麻酔科医が不在だったため、手術を受けられたのは2週間後となった。左膝内部の複雑骨折。

#### 事故原因と対策

毎年駐車している場所は電線が垂れ下がり駐車できず、傾斜のある進入路に駐車した。また、大量に粃が積めるよう軽トラの荷台にコンパネで嵩上げした。そのため、駐車ブレーキが効かないほどの粃が積み、傾斜を動き出した。

軽トラックが動いた時の速度は遅く、すぐに平坦なほ場にさしかかって止まる場所であったが、その時は慌ててしまい、思わず降りてしまった。降りた場所はコンクリート打ちされていた。

事故後は荷台には乗らないことにした。また、排出オーガの向きを変える必要が生じるほどたくさん積まないことにし、軽トラックは必ず平坦な場所に駐車することとした。



軽四のバンを農道の草刈りのため、わずかな坂に駐車したところ、ゆっくり下りだし、慌てて止めようと車を押さえたが、そのまま車に押され、溝に落ち車の下敷きになった。左肋軟骨損傷、左大腿打撲。(平成23年7月 午後4時半頃 女性・69歳)

### 事故の概況

午後4時半ころ、水田の土手の草を刈ろうと、軽自動車に刈払機を積んで出かけた。車を水田近くのに駐車場の取り付け道路に止めた。その道路は7.7度の傾斜があった。ギヤはニュートラル、サイドブレーキを引いたつもりだった。車を降り土手草の様子を確認後、車を見ると少しずつ車が動き出していた。飛び乗ってブレーキを掛けようとしたが出来ず、ずるずると車と一緒に道路横を流れている水路に倒れこんだ。

そこへ車が覆いかぶさるように倒れかかり体の一部が下敷きとなった。幸い車は水路をまたぐように倒れたので空間があり、完全に下敷きにはならなかった。大声を出したが、届かなかった。

そのままの状態、誰かが助けてくれると信じて待った。夕方6時ころ、息子と孫が約180m離れた自宅の2階の窓から、異変に気づき駆けつけて来た。消防署に連絡をし、すぐにパトカー、消防車、救急車、工作車が到着し、病院に搬送された。外傷もなく、胸の打撲だけだったが、安静のため1晩泊まった。左肋骨骨折、左大腿打撲。

### 事故の原因と対策

車を止めた道路の傾斜は6.5°～9.9°と公道に近い下の方が傾斜がきつくなっていた。また、公道も軽い傾斜があり、サイドブレーキが引かれておらず、止まらなかった。運よく、車の下敷きにはならなかったが、いざというときには、車を諦めるぐらいの勇気も必要だったと本人の弁。その後は、「サイドブレーキをかけることを常に意識」し、傾斜のある道路には止めず、平らなところに車を止めている。



少し坂の①の位置に車を駐車し、降りて②の向の畦の草の状態を見にいっている間に、車が徐々に動き出し、慌てて右側から車に飛び乗ろうとしたが、乗れず、③の位置へ来たとき車は右の溝に横転、ご本人も押し出されるように横転し、その上に車が覆いかぶさった。

## (2) 公道での事故

### 7. 軽トラック (2) 公道での事故

58

畑の追肥のため、通り慣れた道路で軽トラの運転を誤り、95cm下の畑に横転した。  
腰部打撲。 (平成25年3月 8時頃 男性・79歳)

#### 事故の概況

山の畑のタマネギの追肥のため軽トラックで自宅を出た。いつもの慣れた道路であった。以前に怪我をしたので、その診察予約をしなければと考え事をしていたところ、目の前にカーブミラーがあることに気がついた。慌ててハンドルを切ったが、土手をこすり、軽トラックの右横が傷ついたようだったので、逆に左にハンドルを切ったところ、幅4.4mの道路の反対側に段差、95cmの畑が見えた。ブレーキを踏んだが間に合わず、軽トラックは腹をこすり、止まるかと思っただが、そのままゆっくりと95cm下の畑に横倒しになった。道路は上り1.3°の緩い傾斜であった。

近くで見ていた人が奥さんに電話で知らせ、奥さんは息子に相談し、救急車を呼んだ。意識はあったが、脈拍が下がっていた。心臓機能が下がり、徐脈の可能性もある。気が遠くなるような感じだったとのこと。しばらく病院で様子を見たが、大丈夫だということで夜家に帰った。翌日も受診した。

#### 事故の原因と対策

以前に斧で足甲部を怪我したことが影響して、車の運転も危なくなった。息子たちと相談して、その後は車の運転をやめた。免許証はまだ持っているが、返上しようと考えている。今は筋力をつけるために、毎日傾斜のある道2kmを歩いて2往復して鍛えている。幸い、畑や林は近くにあり、歩いて15分ぐらいなので、家族に行き先を告げて出かけるようにしている。

高齢者の自動車運転による事故が増えている。免許更新時の高齢者の適性試験もあるが、今後さらに多様な適正試験にて、重大事故を起こす前での免許返納を促す必要がある。



### (3) 降車時の事故

#### 7. 軽トラック (2) 降車時の事故

59

コンバインからメッシュコンテナに移した小麦を平らにならす作業をし、2トントラック荷台から路上に降りた時、舗装面と土面の段差で足首をひねり剥離骨折した。

(平成25年6月 午後2時頃 男性・34歳)

#### 事故の概況

小麦収穫で圃場と共乾施設間の運搬作業をしていた当人が、農道上に停車した2トントラック荷台に積載したメッシュコンテナ2個へコンバインから排出した小麦を平らにならしていた。作業を終え、荷台から道路に降りようと右足を荷台下の専用ステップにかけ、両手で荷台アオリを掴み軽く飛び降りようと左足から降りたが、着地場所が舗装面端と土面の境目で、かつ、段差が6cmあったため、足底が完全に着地できず左足首をひねり、その反動で1m低い道路脇の水田に落下し横転した。

田から這い上がり痛みをこらえて仕事をそのまま続け、1km離れたライスセンターまでクラッチ操作をできるだけしないように心がけ2往復した。

その後、痛みがあり3～4日湿布をして安静にしていたが痛みが取れず、整形外科を受診。病院では湿布と包帯でギブスはしなかった(夏だったため蒸れるのが嫌だった)。右足首剥離骨折、通院50日。

#### 事故原因と対策

使用していたトラックは2トン車4駆の高床タイプで路面からアオリ上部間1.34m、路面から床下専用ステップ間0.8m、荷台幅1.89m、舗装路面幅2.02mと路面から荷台までの上り下りをする環境の農道では無いと同時にトラックも作業環境に合っていない。

また、路肩に雑草が15cm程度伸びていて舗装の境界がよく見えず、道幅狭く、足を置くスペースが限られていた。作業場所の足下や周囲をよく確認することになっている。



荷台から降りた場所には、草丈15cmくらいの草が生えており、道のアスファルト面と土の境がよく分からず、わずか6cmの段差で足首を捻り、足首剥離骨折。

## 8. トレーラー（耕耘機に連結）

### 8. トレーラー ー走行中ー

60

トレーラーを付けた歩行用トラクタでバックしながら苗を運搬中、農道から外れ5m下の排水路に転落。肋骨、鎖骨骨折、肝臓圧迫。

(平23年5月 午後1時15分頃 男性・54歳)

### 事故の概況

山の中腹にある棚田で家族4人で田植え作業を行っていた。歩行用トラクタでけん引したトレーラー（使用経験7～8年）に苗を目の高さまで高く積んで運搬してきた。

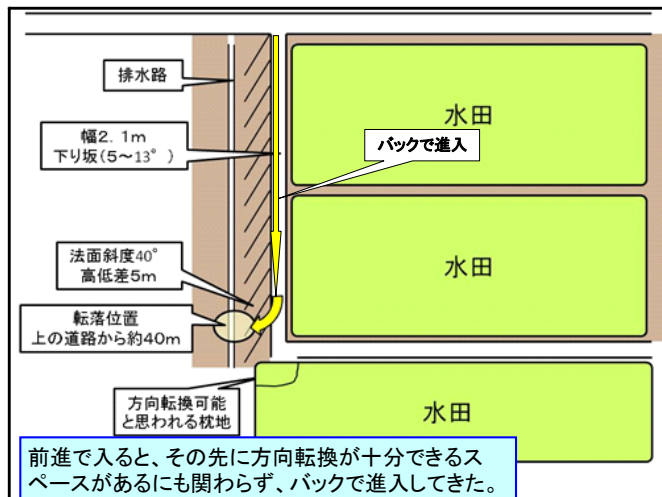
幅2.1mの下り傾斜の農道（斜度は5～13°）を低速、バックで進入、約40m進んだところで水田とは反対側の路肩から脱輪し、そのまま40°の法面を転落、農道から5m下のコンクリート排水路に落下。

近くにいた家族がすぐに救急車を呼び、病院に搬送され入院。肝臓が圧迫され傷ついていたが、検査の結果、手術はせずに済んだ。退院後2週間、通院した。

### 事故原因と対策

苗を満載して後方確認が困難であり、かつ道幅が狭く、片側は谷になっている農道をバックで進入した。突き当たりの水田の枕地は広く、方向転換が可能と思われた。バックで進入した理由は不明。

もともと、このタイプのトレーラーはけん引点で屈曲することにより走行方向を変える構造であり、特にバックの運転が難しい。農道の中央から谷側の路肩に向かって「なで肩」状に9°の傾斜がついており、路面との境界も分かりづらかった。その後、このトレーラーを処分して、軽トラックに乗り換えた。



## 9. 自走式肥料散布機

### 9. 自走式肥料散布機 ー昇降路で転倒ー

6 1

グランドエースに苦土石灰を満タン・約500kgにして昇降路を上がったとき、前輪が浮き上がり、そのまま一回転する形で転覆、投げ出された。

(平24年5月 11時頃 男性・32歳)

#### 事故の概況

営農組合の専従者として前年の秋に雇い入れた農業経験の全くない若者。その当日までは、苗運びなど補助作業的しかしていなかった。初めての経験となるが、営農組合としては、グランドエースはキャタピラがついているので、特に難しいこともなかろうと任せた。

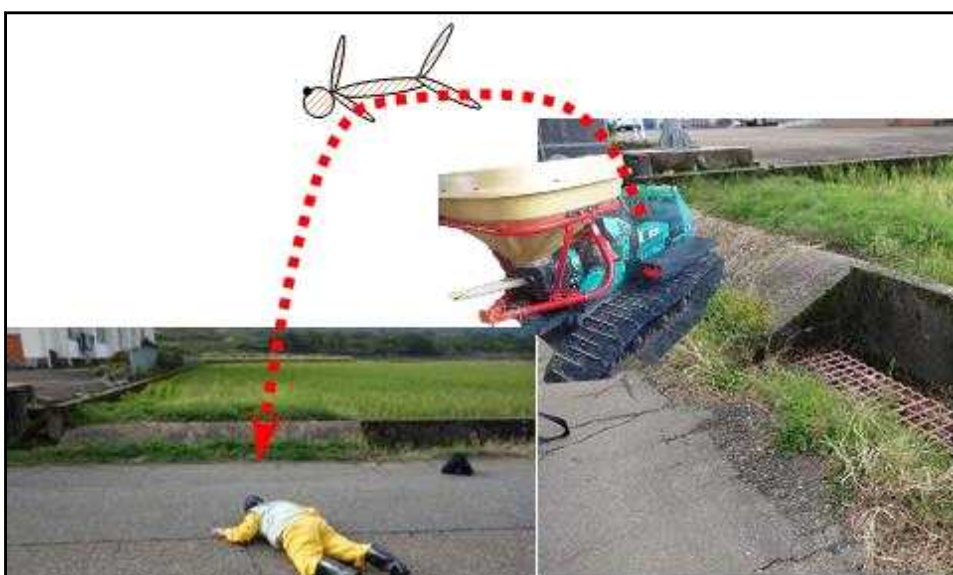
当日は3人1組で、2人が2台で別々の田んぼの散布、もう一人はユニックを使って、それぞれの機械に苦土石灰を入れていた。

たまたま、ユニックを運転手がもう一人の機械に苦土石灰を入れにいている間に、満タンにして運転して昇降路にて、前輪が浮き上がり、完全にひっくり返って裏返しとなり、本人は空中を飛ばされ地面に落ちた。大事故にもかかわらず、本人は右手首を骨折した程度で済んだ。宙を舞って、着地の時は四つん這い状態で手をついたものらしい。

#### 事故原因と対策

昇降路の角度が22～30°と高く、その後このようなきつい昇降路は、削って緩やかになるよう改良を進めている。

一方、グランドエースの後部に500kgもの重量物を支えるのだが、キャタピラの位置は、重量物を支える位置にはなく、通常の平坦な道を走っていても前輪が浮き上がるような構造となっており、空荷の時の安定性のみならず、荷を乗せたときの重心の位置などにも配慮した機械的構造にする必要があると考えられた。



グランドエースを昇降路に向かって直進、斜面で後方に大きく傾き反転に近い状態で横転、本人空中に投げ出され、道路に叩きつけられる。道路反対の倉庫に働いていた人が、すぐに救急車を要請、工作車も出動、右手首骨折。荷は5～600kg、重心は極端に後方にあり、かつクローラをはみ出していると考えられる。